

第1号議案 2023年度活動報告

1. あいコープとの交流・仲間づくり
2. 共同研究
3. 商品作りと利用促進
4. 品質管理・生産技術の向上
5. 石けん運動・環境保全
6. 脱原発の取り組み
7. 被災者支援と地域福祉・平和と人権の尊重



2023年度活動方針1 あいコープとの交流・仲間づくり

- ①コロナ禍でも、組合員や共生会会員間の 交流の在り方を確立すると共に、絆を深め、あいコープの仲間の輪を広げます。
- ②積極的に組合員交流の場を設けるとともに、組合員への情報発信と交流活動の手段として、オンライン企画や SNS を活用して、会員・組合員との共生会活動の共有を図ります。
- ③あいコープとの交流から、事業と運動への理解を深め 参加します。あいコープみやぎの策定する「2025 年ビジョン」の中で、生産者・事業者として課題を 積極的に見だし、共に取り組みます。
- ④あいコープ職員の為の「育成活動」に協力し、互いに支え合います。
- ⑤みやぎの WA!わぁ祭り、ふくしまのあいコープ祭りに協賛し、積極的に参加します。

会員間交流

会員間交流の一環として、今年度は天童果実同志会のりんご作業へ複数回参加し異業種への理解と交流を深めました。参加日程は以下の通りです。

1回目： 7月29日 りんご最終摘果作業（幹事4名参加）

2回目：10月28日 着色管理作業（幹事2名参加）、

3回目：11月25日 収穫（幹事1名参加）

現地で作業に取り組みながら、生産者同士会話を重ねることで新たな視点や横の繋がりを持ち、広げることから異業種間の事業連携の糸口も見えてくる場となりました。



組合員交流

今年度も 県内農産産地での組合員交流が積極的行われました。

大郷グリーンファーマーズ「無農薬交流田」、七郷クローバーズファーム「トライ田んぼ」では 田植えから、草取り、稲刈り、脱穀までの 米作りの一連の作業を 組合員さん、子供たちと共に行いました。田んぼの生き物調べをしたり、ライスセンターの見学、また作業後に 田んぼで おにぎりを食べたりと 楽しい企画も満載。

はさま自然村では「バケツ稲選手権」と「はさま自然村 産地見学会」を開催し、より顔の見える関係性になりました。

また、大人気企画として 秋保ゆうきの会での「たねまきプロジェクト」では、種の大切さを勉強しながら、猛暑で大変な状況の中 草取りをしたり、自然に触れ合いながら 笑顔の絶えない 有意義な時間を過ごしました。



ながめやま牧場見学

9月16日ながめやま牧場の協力の下、あいコープみやぎの企画した放牧パスちゃん牛乳 ながめやま牧場バスツアーが実施されました。



SNS

・2022年5月に共生会のInstagramとフェイスブックを立ち上げ共生会活動を発信してきました。

共生会会員、あいコープみやぎ、組合員のアカウントを相互フォローし活動の共有と交流を図りました。今年度Instagramのフォロワー100件を目標に運用してきましたが、12月10日現在のフォロワーが85件、FACEBOOKのフォロワーが39件となっています。今後も共生会、あいコープ組合員にアカウントを周知し、共生会活動の情報発信と共有のツールとして活用できればと思います。

・オンラインの企画は新型コロナウイルスが5類に移行したことに伴い対面での活動に重点を置いたため実施しませんでした。

Instagram

[HTTPS://INSTAGRAM.COM/KYOUSEIKAI.JIMUKYOKU?IGSHID=MZMYNGUYNMU2YQ==](https://instagram.com/kyouseikai.jimukyoku?igshid=MZMYNGUYNMU2YQ==)

フェイスブック

[HTTP://WWW.FACEBOOK.COM/KYOUSEIKAI.JIMUKYOKU](http://www.facebook.com/kyouseikai.jimukyoku)



共生会幹事とみやぎ理事会との交流会(2023年7月18日)

一昨年、昨年の交流会では、理事さんと活発な意見交換を行うことができる貴重な機会となりました。

そこで今年度は、『産地見学や魚食プロジェクト等、様々な分野で活動を展開している理事の皆さんの「日頃のお仕事」を根ほり葉ほりお聞きすることで、より互いの理解・関係を深めるとともに、生産者としての気づきを多く見つけ、会員へも共有していく』ことを目的とした内容に致しました。

【開催内容】

グループセッション（幹事から理事へ、お題を参考に質問）

- ・ 理事になったきっかけ
- ・ 1日（1週間）のスケジュール・主な活動内容
- ・ 今年度の活動予定・今後、やりたい活動
- ・ 組合員さん、生産者さんへの思い 等

交流会では、理事さんの担当している日々の活動や「思い」を聞くことができ、これまで以上に理事さんを身近に感じることができました。また、お題にとらわれないざっくばらんな話でも盛り上がり、正にこれぞ「交流会」といった雰囲気でした。一方で、時間も限られていた為、「グループ以外の理事との交流の工夫」等が課題として挙がりました。今後もこのような企画は継続していきながら、あいコープと共生会の繋がりをより深いものにしていきたいと考えております。



・あいコープみやぎの職員研修「コアサイクル活動」にながめやま牧場、奥羽乳業、パン工房わ・は・わ、高橋徳治商店、わ・は・わ田尻、ひなた農場、七郷クローバーズファーム、天童果実同志会、趙さんの味、鎌田醤油が協力しました。

みやぎ職員は生産現場見学や作業体験、生産者を講師に招いた学習会で学んだことを組合員に伝え利用促進に取り組みました。（コアサイクルチームの活動状況は資料参照）



・ 2023年6月に あいコープみやぎ「コアサイクル活動」にて、職員が 七郷クローバーズファームで、中玉トマトの管理作業 及び 収穫作業、出荷調整作業を行いました。 「学び ... 体験し ... 感じて ... 考える ...」 そんな活動になりました。 その後、まんま通信にて 7月2回企画の「徳用中玉トマト」の販促活動も この職員チームで行い、週455点の受注点数に伸ばす結果となりました。 また、2023年12月には「曲がりネギの やとい作業」でネギ収穫などの事前作業も行いました。



「産地応援し隊」

あいコープみやぎ組合員で結成された援農活動組織
「産地応援し隊」は今年で2年目になり、登録人数は
101名と多くの方に賛同していただいています。

「仙台えんのう倶楽部」の皆さんと共に、マンパワー
を必要とする産地の心強い手となり、力となりました。

特に今年の夏は 猛暑や干ばつという過酷な状況下にも
関わらず、熱中症対策を工夫しながら多くの隊員の方々が
援農活動に参加して頂きました。

12月には 応援し隊の組合員、えんのう倶楽部、県内生
産者で「懇親会」も行い、一年間の活動の報告・振り返りや、
来年の課題についてグループワークしたり、
参加産地の食材を「とうほく食育実践協会」の皆さん
に料理して頂き、美味しく楽しくいただきました。

この組合員と生産者の関係性は あいコープならではの
関係性だと思います。



あいコープみやぎ WA！わぁ祭り2023

10月21日 産業見本市会館（サンフェスタ）

WA！わぁ祭り実行委員会に幹事会から1名参加しました。
新型コロナウイルスが5類に位置付けられ、以前の生活が戻りつつある中で始まった実行委員会でした。

試食・販売ありの、フル規格のお祭りは4年ぶりということで、以前の記憶と記録を掘り起こしながら、実行委員の理事の方々の圧倒的な熱量の中で委員会は進み、大抽選会やじゃんけん大会、ブースリポート等の魅力的な企画が提案されました。

10月21日お祭り当日は、久々の対面販売で気合が入る生産者と、久々に生産者とのふれあいができる組合員の熱気が開会と同時に溢れ、午後2時の閉会まで、各ブースは人だかりの大盛況でした。

やはり、生産者が直接組合員のみなさんと顔を合わせて、自前の商品の魅力や、市販品との違いをアピールできる、このような祭りはすごく有意義で有難いものだなと改めて思った一日でした。



あいコープふくしま あいコープ祭り

12月3日 ビッグパレットふくしまにて、あいコープまつりが開催されました。
今年は飲食スペースを設けないながらも試食を再開し、会場で自慢の生產品の美味しさ、魅力を直接伝えられるお祭りになりました。

会場設営から撤収まで、1日で完了するタイトな日程でしたが、来場した組合員の皆様には大変喜んでいただけたと思います。
福島にも共生会生産者のファンが大勢いらっしゃることに感動し、心強さを感じました。



2023年度活動方針2 共同研究

- ①農法研究会の活動をすすめ、有機農産物、農薬不使用作物の安定供給・生産増に取り組み、組合員・会員に対しても、その活動成果を知らせる広報活動も強化します。
- ②気候変動、資源・エネルギー問題、グローバリズムによる圧力、人口減少、格差拡大など厳しい状況の中で事業を担う生産者・職員・組合員の研鑽と交流の場を企画していきます。
- ③あいコープと生産者が協同して行う、あいコープ PB 商品を中心とした商品検査(GM 表示対応、放射能 汚染水対応を含む)や食味検査を助成します。
- ④水産関連会員の交流企画を実施し、各産地の状況も把握しながら、連携出来る体制を構築できるよう取り組みます。また、組合員も参加できる水産を中心とした学習と交流の場を作ります。その一つとして、ALPS 処理水の「トリチウム」に関する勉強の場を設けます。

農法研究会

農法研究会では、有機農産物を多くの組合員に利用してもらえよう、技術研鑽の学習会を行いました。2月には、館野かえる農場の館野氏をお招きし、有機稲作の栽培技術を学びました。また年間を通して、BMW技術協会協力のもと、有機農業に必須な土づくり、堆肥づくりの基礎を学ぶ学習会を連続で開催し、県内農産産地の、有機農業実践のサポートを行いました。

3月、あいコープみやぎが企画した農産報告会に参加しました。「心が通うオーガニック話」と題し、あいコープの掲げる「オーガニックのあいコープ」の実現に向け、農産の有機農業にかける思いを、組合員に向けて報告しました。

大郷グリーンファーマーズ、西塚 忠元社長に、当時、有機農業をはじめた際の思いを講演頂き、県内4産地の取組の報告などを行いました。組合員からの農産への応援を頂き、各産地においては、今後の自分たちの農業を深く考える機会になりました。



【2】活動関連

（1）農法研究会

2022年度活動

・3/28(火)10:00~12:00

10:00~開会あいさつ

10:05~西塚忠元さんお話し

10:55~生協報告（農産方針）発表

11:05~各産地より発表

七郷

大郷

はさま

秋保

（登壇3分+発表7分以内の計10分）

11:45~質疑応答

11:55~開会あいさつ



「あいコープみやぎ資源循環型農業推進プロジェクト」

近年、資源の取り合い、物価の高騰を受け、今まで行ってきた生産活動が、持続できない時代になってきました。

農産産地では、農法研究会で学んだことを実践に移すために、BMW技術協会協力のもと「あいコープみやぎ資源循環型農業推進プロジェクト」を立ち上げ、会員間での未利用資源のシェアを行い、地域循環型農業のモデルづくりに取り組んでいます。

地域の有効資源を再度見直し再利用することで、他に依存しない農業を目指します。

現在、農法研究会で行なっている堆肥作りには、多くの会員、あいコープ職員、あいコープ理事の協力をいただいております。シェアによる、他に依存しない生産活動の輪が広がっています。



醸成した商品検査の結果は次の通りです。

トリチウム検査	7検体を検査しすべて検出限界以下
堆肥分析	当日配布資料参照
栄養成分検査	当日配布資料参照
残留農薬検査	2023年度は未実施

「あいコープ共生会水産部会」設立

近年の温暖化や海水温の上昇など、水産業を取り巻く環境は厳しさを増しております。

こういった環境の中で、共生会に加盟する水産事業者から有志を募り、「あいコープ共生会水産部会」を設立致しました。

各産地の情報共有や、あいコープの事業と運動に連携した水産事業者の交流と連携を進める事、ALPS処理水の海洋放出など、様々な課題について勉強会を開催する事を目的とし、活動を進めていく状況です。



2023年度活動方針3 商品作りと利用促進

- ①あいコープ組合員のニーズに応える商品の提案、開発、供給を進めます。
その為の 会員間の学び合いの場を企画します。
- ②供給している商品の優位性と、生産者・供給者としての自らの想い、姿勢をより深く、
そして分かりやすく伝える事ができるスキルの向上に努めます。
- ③まんま通信の紙面充実に、協力します。
- ④NPO とうほく食育実践協会の「食育事業」に協賛します。

PBマヨネーズの開発

花兄園の花たまごを使用したマヨネーズがあいコープみやぎPBあいシテル商品として開発されました。マヨネーズのリニューアルに伴う開発会議に花兄園、丸和油脂が参加しました。

2022年9月より開発会議の活動が開始され、次の開発コンセプトを確認しました。

- ① 花たまご、圧搾一番搾り菜種油の使用
- ② 全卵タイプでマイルドな味わい
- ③ 調味料（アミノ酸）不使用
- ④ 既存の味わいをベースに更に美味しくブラッシュアップ
- ⑤ 組合員の皆様に愛されるマヨネーズ

製造者の丸和油脂の協力のもと、妥協をせず会議と試作を繰り返し、試作回数は約20回を数えました。その結果、今までのマヨネーズの味わいを大事にしつつ、さらに美味しいマヨネーズが誕生しました。

花兄園は原料の卵の生産者として初代マヨネーズの開発に大須賀木（おおすがこだち）社長が参加し、今回のリニューアルには二代目の大須賀裕さんが参加し親子2代に渡ってマヨネーズの開発に携わることになりました。

「花兄園の花たまご使用マヨネーズ」も初代マヨネーズのように長く皆様に愛される商品になることを期待しています。

コアサイクル活動による商品開発

あいコープみやぎの職員教育活動
「コアサイクル活動」の一環として、
昨年が続いてパン工房わ・は・わと
みやぎ職員チームが商品開発に取り組み、
パン2品を開発しました。

あいコープのフェアトレード商品である
「バランゴンバナナ」を使用した
「バランゴンショコラ～南の島の初雪～
2個税込396円」は11月2回より月1で企画。
初回は501点の受注がありました。

また、2024年1月5回には、
「野沢菜と根菜のシャキッとPIZZA」
をスポットで企画致しました。



盛付例

新

みんなの輪
パン工房わ・は・わ(宮城)

49



バランゴンショコラ～南の島の初雪～

2個

367円(税込396円)

チョコチップを混ぜ込んだ食パン生地に、スライスしたバナナを
包み込み、仕上げにバターをそぼろと粉糖をトッピングしました。

【乳】【卵】お届けの翌日まで

原材料 小麦粉(小麦(岩手県産))、バナナ、
チョコチップ(砂糖、植物油、ココアパウダー、カ
カオマス、全粉乳)、てんさい糖、バターをそぼろ、米
粉(うるち米(大郷町産))、バター、粉糖、脱脂粉
乳、イースト、粗塩/乳化剤(ショ糖脂肪酸エステル、
大豆レシチン)、香料(香気成分)

あいコープみやぎ
青葉Bチーム

スノーシュガーをふりかけ、フィ
リピンに普段降ることのない
雪を表現しました。しっとり生
地にバランゴンバナナとチョコ
チップがたっぷり。私たちが開
発した商品が日本とフィリピン
をつなぐ架け橋になれたらとい
う想いを込め考案した逸品を、
どうぞ召し上がってください。

NPO とうほく食育実践協会「食育事業」への協賛



NPO法人とうほく食育実践協会に、予算
通り助成を行いました。
(決算案参照)

とうほく食育実践協会HP
<https://www.touhokusyokuiku.com/>



2023年度活動方針4 品質管理・生産技術の向上

- ①食の自給と安全を事業活動の中で追求します。
- ②遺伝子組み換え技術・ゲノム編集技術の食への応用反対し、GMOフリーゾーンの拡大に取り組みます。
ゲノム編集トマトの苗の配布に反対します。
- ③遺伝子組換え表示制度改正に伴い、GMO 表示対応検査・その他商品検査に掛かる費用について、
PB 商品を中心に助成します。
また、消費者と生産者のための本来の表示制度の在り方を会員間で議論し、法改正を求めています。
- ④原材料のトレサビリティの徹底に努力し、NON-GMO食品を求める組合員に応えます。
- ⑤会員間の地域循環の取組みを進めます。
- ⑥HACCP、GAP の導入を進め、品質管理の強化に取り組みます。一般衛生管理の向上にも努めます。

地域循環の取組み

今年度、農法研究会および宮城BMが取り組んでいる
「あいコープみやぎ資源循環型農業推進プロジェクト」に
宮城県内の加工食品生産者が連携し、地域循環の取組みの研究調査に
参加しました。

このプロジェクトで作っている「種堆肥」には、

- ・七郷クローバーズファームの「米ぬか」「稲藁」「BMW活性水」
- ・大郷グリーンファーマーズの「米ぬか」
- ・花兄園の「鶏糞」
- ・ひなた農場の「豚糞」
- ・菅野食品の豆腐製造の際に出る「おから」
- ・鎌田醤油の「醤油搾りかす」
- ・一路の「きのこの菌床」
- ・東北大学 馬術部の「馬糞」

等を使用しています。

耕作には欠かせない堆肥に、これだけ多くの生産者が関り、
その堆肥ですくすくと育った作物は、穀物飼料や原料となり、
やがて畜産農家や加工業者に戻っていきます。



これまでも、共生会員生産者が栽培した飼料米や大豆など会員間活用や、パン工房わ・は・わの食パンの耳、マツダ製麺の麺をひなた農場のエサに利用するといった取り組みは行われてきましたが、この取り組みが進めば、畜産農家・耕作農家・食品加工業者の間で資源がさらに循環し、そこに地域の繋がりが生まれることが期待されます。

また今回は、パン工房わ・は・わの職員もこのプロジェクトに加わり、直接種堆肥作りにも挑戦しました。自然界の微生物の力を最大限に引き出し、分解・発酵させることで堆肥が出来上がっていく過程は、イースト菌の力を借りて作るパンの発酵に似ているところがあり、改めて自然の力のすごさと奥深さを感じたところでした。



HACCP学習会

今回の学習会につきましても開催を見送っております。上記学習会の内容含めまして次年度は生産者の要望を募る機会を設けご意見や要望の上検討し実施していきたいと思っております。

食品添加物・食品表示学習会

9月1日「食品業界、2023年を境に何が起きるか？消費者に何を訴えるべきか！」と題して、昨年に続き講師に消費者問題研究所代表・垣田達也先生をお招きして学習会を開催致しました。開催方法はあいコープ会議室を借りての対面とオンラインでのハイブリット形式で実施し、対面5名、オンライン15名の参加となりました。

2023年4月1日に改正食品表示法が施行された5か月が経過したこと、23年を境に食品業界が抱える問題を食品表示の事例なども交え幅広い内容で講演して頂きました。

【食品添加物食品表示学習会参加者の感想】

- ・食品について改めて考えるきっかけになった。
- ・農薬、添加物、アレルギーの話しが勉強になった。
- ・内容が広く浅く、もっと掘り下げた話を聞きたかった。
- ・昨年の内容と被る部分が多く、物足りなかった。
- ・もっとテーマを絞り具体的な内容を聞きたかった。

企画運営側として開催の目的に則したテーマの絞り込み、講師の方との内容確認、参加人数も増やせるよう会員の関心の引き上げや集約方法など、見直すべき課題も多くありました。今後はより有意義で充実した内容で開催できるよう改善していきます。



2023年度活動方針5 石けん運動・環境保全

①水環境を守る石けん運動に取り組みます。

2023年9月宮城県で開催されるシャボン玉フォーラムに協力・参加します。

②「あいコープみやぎ 2025 年ビジョン」で掲げられた、

脱プラスチックなどの環境保全活動に自らの生産や事業の中での取り組みを、
会員間で情報交換しながら追求します。

シャボン玉フォーラムINみやぎ

9月30日 仙台市福祉プラザでせっけん運動ネットワーク主催のシャボン玉フォーラムがあいコープみやぎを受け入れ団体として開催されました。実行委員会に菅原達徳幹事と阿部寿一副会長が参加し準備を担いました。

大会スローガンは「好きだっちゃ せっけん！のぞいてみっぺし東北の海」、全国から石けん運動に取り組む人々が249名（内ZOOM参加116名）参加しました。

宮城県仙台市で開催するということで、オープニングイベントとして理事、子供達、共生会生産者みんなで心を込めて仙台雀踊りを披露し、大好評の中フォーラムがスタートしました。



講演をいただいた水中写真家の鍵井さんからは、東日本大震災後から撮り続けた三陸の水中の現状や、世界の海の中の美しさや偉大さ、そして人間が廃棄したゴミと海の生き物の共生について、写真を交えながらとても分かりやすく話していただきました。普段の生活では感じにくい視点から海を見ることができて、多くの参加者から好評をいただきました。



せっけん運動ネットワーク参加団体の活動報告と講演者の鍵井さんを交えたパネルディスカッションが行われ、重茂漁協女性部の盛合さんからは昭和57年から続けてきた地域を巻き込んだせっけん運動の取り組み、アーダブレーンの佐藤さんからは、石けん利用を広げるため化学的に分かりやすく説明したりユニークなネーミングをつけたり、色んなアイデアをだしながら販売努力をしていることが報告されました。せっけんを当然のように利用している参加者さんからは「せっけんは利用していたけど、コロナもあり他人にお勧めすることをしにくかったが、これからは改めてお勧めしてみたい」という声が上がっていました。色んな方面から休憩時間に見ていただけるように、各団体の広報誌を展示するスペースを設けたり、鍵井さんの写真の展示と本の販売も行い、時間の有効利用を行いました。

久しぶりの対面で行われたシャボン玉フォーラムは、せっけん利用推進だけでなく、海の現状や環境をみたり、マイクロプラスチックだけでなく誰でもできるゴミ拾いも大切な行動だったり、アルプス処理水放出による海洋汚染の話しや、色んなイベントを継続することが大切だという話だったり、いろんな角度から環境について学べる場でした。お土産には、新商品の「めぐる石けんさいかち」や、可愛いダンゴウオを描いたオリジナル扇子を渡しました。



石けん工房わ・は・わの立ち上げ

社会福祉法人みんなの輪では、「リサイクル石けん さいかち」をわ・は・わ広瀬で製造しておりましたが、住居地域に区分されているため製造を継続できないことが判明致しました。

やむなく休止となった矢先、組合員さんからの「なくさないで」という声を沢山頂きました。本当にありがたいことでもあり、またこれまで広げてきた「石けん運動の輪」を途絶えさせない為にも、どうにか製造を継続できないか、再検討致しました。

そうしたところ、大郷町にある「わ・は・わ味明」の倉庫を石けん工場としても利用できることが分かり、あいコープ組合員さんからのカンパとジョイケア基金からのご協力も頂きながら、2023年8月に「石けん工房わ・は・わ」が完成、食品以外では初めてとなるあいシテル商品「めぐる石けん さいかち」と名前も一新し、製造を再開致しました。

今後もさいかちを通して石けんの輪を広げていくことで、できる限りきれいな水を自然に返し、めぐる環境を維持していけるよう活動を継続致します。



2023年度活動方針6 脱原発の取り組み

①東京電力福島第一原発事故は、まだ終わっていません。

新たな環境汚染、被ばくによる健康被害のない廃炉作業を求めます。

放射能を含んだ「処理水」の海洋放出・大気放出に中止を求めます。

②脱原発を目指します。女川原発の再稼働に反対します。

③環境中に大量の放射能を放出する、六ヶ所核燃料再処理工場 本格稼働に反対します。

④再生可能エネルギーの利用拡大に努めます。

3月25日「STOP女川原発再稼働 さよなら原発宮城県民集会」

幹事2名が参加しました。
あいコープ理事さんや組合員さんと共に集会を共有する事で、この問題の重要性を更に肌で感じる事が出来ました。特に生産者である福島の漁師の方の声には、感銘を受けました。
引き続き、「脱原発」の声をあげていきます。



5月26日「原発をとめた裁判長そして 原発をとめる農家たち」映画上映会

「原発をとめた裁判長」上映実行委員会主催、
生活協同組合あいコープみやぎ共催

幹事1名が参加し、脱原発、再稼働反対の意向を持った取り組みと知識の向上を目的に活動しました。



9月9日「福島第一原発汚染水放出について」オンライン研修

幹事2名が参加しました。今回の研修では、海洋放出の費用と期間が2018年に政府の審議会
で打ち出された「17～34億、52～88カ月」から現在は「1,200億、30年以上」へ膨れ上がっ
ていることや、大型タンク保管案やモルタル固化処分案等の代替案が全く検討されていない
ことなど、海洋放出までの審議が十分でない実態を知りました。

海洋放出の問題は、脱原発の訴えと同様反対の意向を示していく為の知識を今後も深めてい
かなければなりません。引き続き様々な視点を持って学習を深め情報の共有と発信に努めま
す。

太陽光パネルの設置

あいコープみやぎ脱原エネルギーシフト委員会と
共生会幹事会による情報交流を行い、社会福祉法
人パン工房わ・は・わの工場屋根に太陽光パネル
の設置を行いました。



2023年度活動方針7 被災者支援と地域福祉・平和と人権の尊重

- ①2011年東日本大震災と原発事故によって被災者、被災地が直面する困難は続いています。
問題を風化させず、自らの事業を通して被災者支援、地域福祉活動に取り組みます。
- ②自然災害の激甚化は今後も繰り返すことが予想されます。
今後の会員間の支え合いとして「あいコープ共生会自然災害基金」の醸成を続けます。
- ③貧困問題や子ども食堂への支援等、あいコープの取り組みに対する理解や問題意識の共有を深め、学ぶことから支援の在り方を考えます。
- ④手の届くところへ手を差し伸べ、あいコープと共に平和を守り人権を尊重する社会を目指し活動します。

「子ども食堂」等への支援

今年度も農産生産者のネットワークで、「宮城野子ども食堂」「ふうどばんく東北AGAIN」への支援を継続しています。あいコープみやぎと連携する生産者の間で協力の輪がひろがっています。

物価高の影響もあってか、利用する方々が増えている状況です。

自然災害基金積立

自然災害基金に予算通り、積立しました。2023年度の基金からの支出はありませんでした。（決算案参照）

（注）2024年1月1日に発災した能登半島地震につ

